

黒部市民病院新改革プランの点検・評価
(令和2年度実績)

令和3年8月

1. はじめに

黒部市は、平成27年3月に新たに総務省から示された「新公立病院改革ガイドライン」を受け、平成29年3月に「黒部市民病院新改革プラン」を策定しました。

この新改革プランの期間は平成28年度から令和3年度までの6年間で、黒部市病院事業運営協議会の中で毎年、点検・評価・公表を行うことといたしました。

2. 評価方法

目標に対する評価を以下の区分で行いました。

区 分	評価の内容
A	目標以上に達成されている
B	目標が達成されており一定の実績がある
C	目標が未達成で実績不足である

3. 点検・評価

令和2年度の点検・評価は、「医療機能等指標に係る数値目標」「経営指標に係る数値目標」について行いました。

次頁 黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価①～④

黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価(令和2年度)①

【資料3-1】

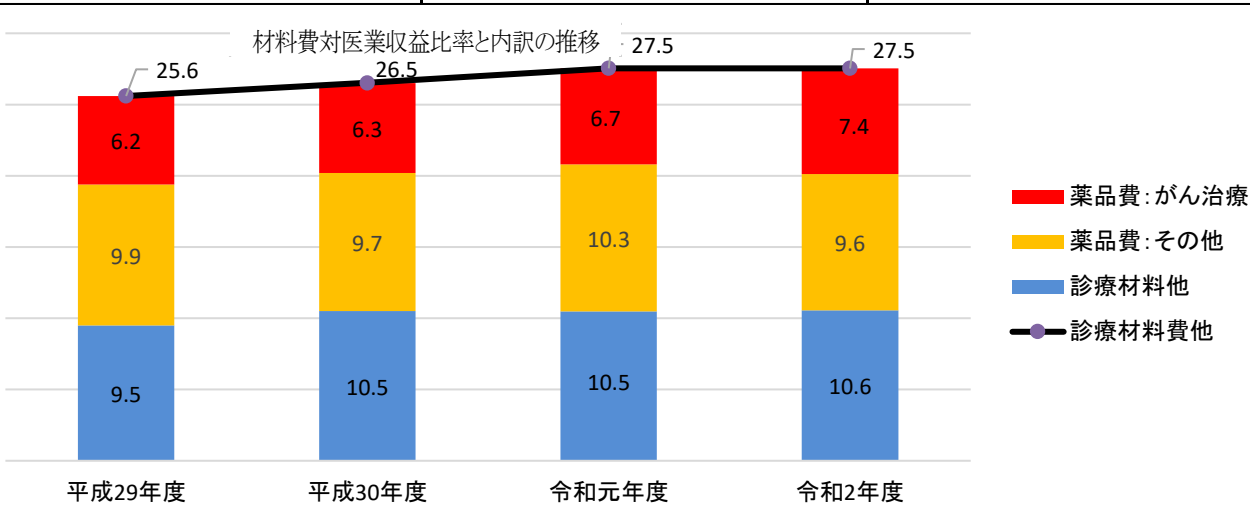
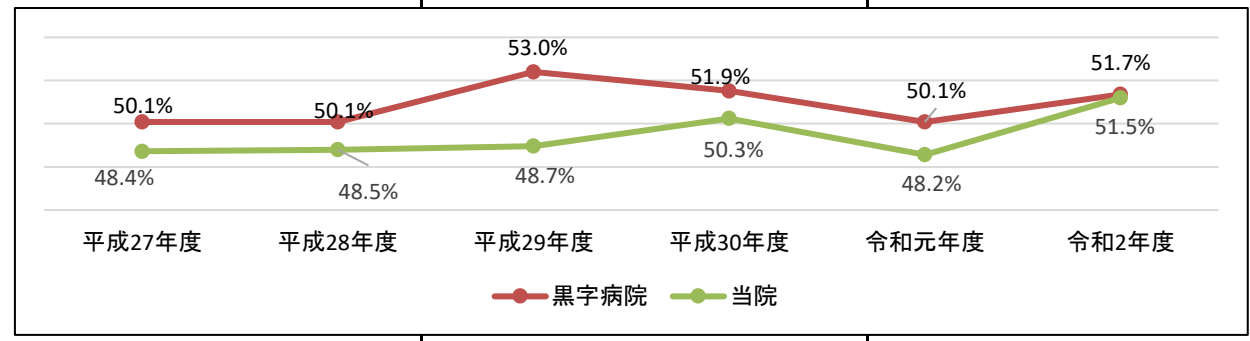
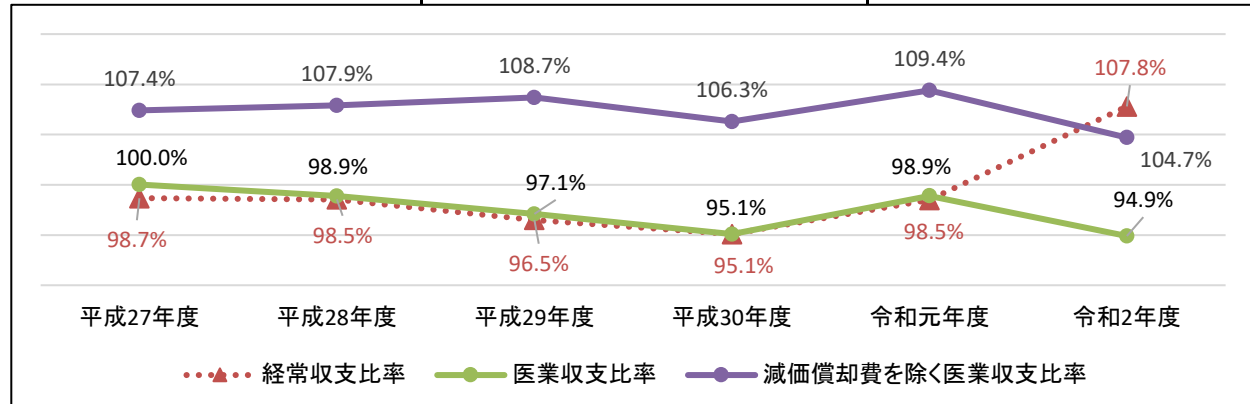
項目・区分等	最終目標 (R3年度)	単位	目標設定の考え方	R2年度		取り組みと実績及び課題等	自己評価																																
				目標	実績																																		
医療機能等指標に係る数値目標	紹介率	50.0	%	地域の医療機関との連携を進めるため、紹介率・逆紹介率の向上を目指す。	50.0	63.3	<p>・医師、看護師、事務など病院全体で取り組んだ結果、目標数値を達成。令和元年6月1日より地域医療支援病院に認定された。新型コロナウイルス感染症により患者数は現象しているが紹介率・逆紹介率共に割合を維持しており、今後とも継続できるよう取り組む。</p>	A																															
	逆紹介率	70.0	%	令和元年6月1日より地域医療支援病院に認定された。要件である紹介率50%、逆紹介率70%以上を今後も継続していく。	70.0	95.2		A																															
	新入院患者数	8,650	人	基幹病院としての役割を果たし、新入院患者数の増を目指す。	8,650	8,078	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響で全体的に患者が減少している。 ・R3年度は感染対策が進んだ結果、昨年より新型コロナウイルス感染者が多い状況であっても患者数が対前年より増加している。</p>	B																															
	初発がん受診患者数 注)数値の確定には2年を要するため変動有	600	人	がん診療連携拠点病院として初発がんの受診患者数の増を目指す。	600	549	<p>・がん診断、治療体制の充実に努める。 ・他の医療機関との連携強化に努める。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(件)</th> <th>診断のみ</th> <th>診断・治療</th> <th>他施設診断・治療</th> <th>計</th> <th>治療有計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>44</td> <td>513</td> <td>83</td> <td>640</td> <td>596</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>49</td> <td>499</td> <td>95</td> <td>643</td> <td>594</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>48</td> <td>462</td> <td>87</td> <td>597</td> <td>549</td> </tr> </tbody> </table>	(件)	診断のみ	診断・治療	他施設診断・治療	計	治療有計	平成30年度	44	513	83	640	596	令和元年度	49	499	95	643	594	令和2年度	48	462	87	597	549	B							
	(件)	診断のみ	診断・治療	他施設診断・治療	計	治療有計																																	
平成30年度	44	513	83	640	596																																		
令和元年度	49	499	95	643	594																																		
令和2年度	48	462	87	597	549																																		
内視鏡手術件数 注)内視鏡センター施行分除く	900	件	高度な医療の提供状況の把握として、内視鏡手術件数の増を目指す。	900	515	<p>・全身麻酔手術が新型コロナウイルス感染症により一時制限されていたため、対前年度で109件減少となった。 ・受診控えの影響か重症化する患者が増加傾向であり、開腹手術となるケースが増えた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(件)</th> <th>外科</th> <th>整形外科</th> <th>産婦人科</th> <th>泌尿器科</th> <th>耳鼻科</th> <th>呼吸器外科</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>125</td> <td>116</td> <td>134</td> <td>119</td> <td>52</td> <td>43</td> <td>589</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>135</td> <td>115</td> <td>125</td> <td>128</td> <td>42</td> <td>79</td> <td>624</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>120</td> <td>116</td> <td>113</td> <td>74</td> <td>31</td> <td>61</td> <td>515</td> </tr> </tbody> </table>	(件)	外科	整形外科	産婦人科	泌尿器科	耳鼻科	呼吸器外科	計	平成30年度	125	116	134	119	52	43	589	令和元年度	135	115	125	128	42	79	624	令和2年度	120	116	113	74	31	61	515	C
(件)	外科	整形外科	産婦人科	泌尿器科	耳鼻科	呼吸器外科	計																																
平成30年度	125	116	134	119	52	43	589																																
令和元年度	135	115	125	128	42	79	624																																
令和2年度	120	116	113	74	31	61	515																																
救急患者に占める入院患者の割合	20.0	%	救急の適正な利用状況の把握のため救急患者の入院者数の割合を一定以上に保つ。	20.0	25.7	<p>・受診控えにより、重症患者の割合が増えたことにより大きく伸びた。</p>	A																																

自己評価：達成状況評価 A→目標以上、B→一定の実績、C→実績不足

黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価(令和2年度)②

【資料3-2】

項目・区分等	最終年度 (R3年度)	単位	目標設定の考え方	R2年度		取組	実績	課題	自己評価	黒字病院平均		
				目標	実績					H29	H30	R元
経営指標に係る数値目標 1 / 3	経常収支比率	96.7	%	経常収支比率は病院の経営全体を、医業収支比率は本業での収支をみるための指標であり、100%が損益の分岐点となる。改革プラン期間中は多額の減価償却費の影響により、100%超えを目標とはしない。	96.7	107.8	・一般病棟入院基本料1(旧7対1看護体制)の算定継続 ・看護師の確保 ・新たな施設基準の取得	・新型コロナウイルス感染症関連の補助金利用による医業外収益の増 ・経常収支比率は目標達成したが、医業収支比率、減価償却費を除いた医業収支比率は目標未達成	A	102.0	102.7	101.0
	医業収支比率	95.0	%		95.0	94.9			B	96.1	97.1	96.8
	減価償却費を除いた医業収支比率	106.5	%	上記2つの指標には特殊要因として増改築事業にかかる減価償却費が含まれるため、これを除いて106%以上を保ち将来の黒字化につなげることを目標とする。	106.5	104.7			B	104.8	105.6	104.7
	給与費対医業収益比率	53.5	%		53.5	52.8	・適正な職員配置 ・出退勤の管理	・医師5名増員(常勤医1名、会計年度職員4名) ・看護師は会計年度職員を含め8名増員	A			
退職手当負担金を除いた給与費対医業収益比率	50.8	%	病院の職員数が適正かどうかを判断する指標。看護師等の人員増の計画もあるが、当院では退職手当負担金を除き最終的に51%以下に抑える。	50.8	51.5			B	51.9	50.7	51.1	
材料費対医業収益比率	27.0	%	医業収益に対する材料費の割合を示す指標。平成27年度の黒字病院平均以下を目標とした。	27.0	27.5	・材料ごとの個別価格交渉 ・全国的なベンチマークの活用 ・薬品見積り依頼業者数の制限を視野に入れた交渉	・価格交渉値引効果 薬品0.63%削減(約10,647千円) ・医薬品のジェネリック移行 R2年度末87.3%	・医薬品のジェネリック移行推進継続 85%以上を目指す(DPC係数関連) ・薬品費の削減	B	26.1	26.7	26.0



自己評価 : 達成状況評価 A→目標以上、B→一定の実績、C→実績不足

黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価(令和2年度)③

【資料3-3】

項目・区分等	最終年度 (R3年度)	単位	目標設定の考え方	R2年度		取組	実績	課題	自己評価	黒字病院平均																							
				目標	実績					H29	H30	R元																					
経営指標に係る数値目標 2 / 3	院外処方箋発行率	85	%	薬剤師の人員確保が困難な中、薬剤師の入院患者関係業務への比重拡大のため院外処方箋発行率の増を目指す。	85.0	83.5	・院外処方の推進 ・対前年2.7ポイント改善(80.8%→83.5%)	・透析患者へ拡大 ・敷地内薬局(R4.4月開局予定)の利用推進	B	85.4	90.3	90.6																					
	一日当たり外来患者数	788	人	他の医療機関との機能分化・医療連携を進め外来患者数の減を目指す。	840	752.4	・逆紹介の推進 ・地域医療支援病院の機能周知 ・対前年 一日当たり外来患者数 内科 △ 17.0人 小児科 △ 35.3人 耳鼻いんこう科 △ 7.5人 計 △ 82.9人 (「診療科別患者数及び診療収益の比較表」参照)	・他医療機関とのさらなる連携に向けた地域医療連携室の体制強化 ・コロナ禍であっても安全に受診できる体制構築	A	932	943	906																					
	一日当たり入院患者数 (一般のみ/405床)	293	人	一般病棟入院基本料1(旧7対1看護体制)を維持するため一日当たり入院患者数は320人以下とした。	320	275.0	・積極的な退院支援 ・対前年 一日当たり入院患者数 △51.3人 病床稼働率 △12.5%	・円滑な入院支援 ・感染症指定医療機関としての役割を果たしていく中での一般患者に対する入院体制維持	A	329	330	367																					
	病床稼働率 (一般のみ/405床)	71.5	%		79.0	67.6	<table border="1"> <caption>病床稼働率と平均在院日数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>病床稼働率 (%)</th> <th>平均在院日数 (日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成27年度</td> <td>83.9%</td> <td>13.9日</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>82.8%</td> <td>13.6日</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>80.4%</td> <td>12.9日</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>78.3%</td> <td>12.2日</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>80.4%</td> <td>12.9日</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>67.6%</td> <td>11.3日</td> </tr> </tbody> </table>			年度	病床稼働率 (%)	平均在院日数 (日)	平成27年度	83.9%	13.9日	平成28年度	82.8%	13.6日	平成29年度	80.4%	12.9日	平成30年度	78.3%	12.2日	令和元年度	80.4%	12.9日	令和2年度	67.6%	11.3日	A	(参考)病床利用率 72.9 71.9 82.4	
	年度	病床稼働率 (%)	平均在院日数 (日)																														
	平成27年度	83.9%	13.9日																														
	平成28年度	82.8%	13.6日																														
平成29年度	80.4%	12.9日																															
平成30年度	78.3%	12.2日																															
令和元年度	80.4%	12.9日																															
令和2年度	67.6%	11.3日																															
平均在院日数 (一般のみ/405床)	13.0	日	適正な入院期間の推進により在院日数の短縮を目指す。	13.0	11.4	・地域医療連携室社会福祉士、看護師等による積極的な退院支援の実施 ・クリニカルパス見直し ・ベンチマーク等による適正值報告 ・対前年 △0.8日(12.2日→11.4日) 新型コロナウイルス感染症による病床確保の為に入院期間短縮	・社会福祉士、看護師等による更なる退院支援の為に人員・体制構築 ・急性期以降の退院先機関との連携	A	11.9日 /453床	11.7日 /453床	11.7日 /446床																						
一日当たり外来単価	20,300	円	症状の安定した患者を地域の医療機関に逆紹介することにより単価増を目指す。	17,000	20,079	・新たな施設基準の取得 ・専門医療、急性期医療を必要とする患者の他の医療機関からの積極的な受入れ ・対前年 1,236円増(18,843円→20,079円) ・高額な注射・投薬による増収 ・新型コロナウイルス感染症による受診控えによる単価の低い患者の減少	・紹介、逆紹介患者の推進 ・他の医療機関との顔の見える関係づくりの強化	A	13,685円	14,058円	16,539円																						
一日当たり入院単価	58,500	円	新たな施設基準の取得、紹介・逆紹介の推進により入院単価増を目指す。 R1 52,000円 R2 53,500円	53,500	54,874	・新たな施設基準の取得 ・コンサルティングによるDPC制度の院内研修 ・急性期医療終了後の他の医療機関への積極的な患者の紹介 ・ベンチマークシステムを活用した適正な診療方針の検討 ・対前年 4,370円増(50,504円→54,874円) ・DPC入院単価が高い期間での退院増(=平均在院日数の減少) ・急性期医療による治療内容の濃い(単価が高い)患者割合の増 ・新型コロナウイルス感染症による受診控えによる単価の低い患者の減少	・一般病棟入院基本料1(旧7対1看護体制)の維持 ・総合入院体制加算・地域医療支援病院の要件維持 ・コンサル・ベンチマークの検討内容を周知・実行する組織体制 ・ハイケアユニット入院医療管理料を目指した取り組み	A	53,401円	55,070円	61,555円																						

自己評価 : 達成状況評価 A→目標以上、B→一定の実績、C→実績不足

黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価(令和2年度)④

【資料3-4】

項目・区分等	最終年度 (R3年度)	単位	目標設定の考え方	R2年度		取組	実績	課題	自己評価	黒字病院平均			
				目標	実績					H29	H30	R元	
経営指標に係る数値目標 3 / 3	医師の確保 (年度末職員数、初期研修医除く)	72	人	神経内科医もしくは精神科医、呼吸器内科医等常勤医が1人の診療科の複数人体制を目標とする。	72	73	・金沢大学及び富山大学の医局との連携 ・常勤医1人診療科における複数人体制	・年度末 医師数73名 ・精神科医の1名増員 ・脳神経内科、呼吸器内科の増員なし	・診療ニーズの高い呼吸器内科、脳神経内科等増員を継続要望(複数人体制の確立) ・関連大学医局との密な情報交換及び連携強化	A	88人	87人	89人
	看護師の確保 (年度末職員数)	330	人	一般病棟入院基本料1(旧7対1看護体制)の維持のため、人員増を図る。	330	328	・県内・近隣県の看護学校訪問 ・看護学生向け病院見学会の実施 ・看護部PR動画の作成 ・看護学生奨学金及び看護職員奨学金返還助成金のアピール ・一部病棟で二交代制の実施(多様な働き方の実現)	・看護学生奨学金 2名 看護職員就業補助金 6名 ・二交代制の本格実施(全7病棟中1病棟で実施)	・産休・育休・介護などライフステージに合わせた多様な働き方の提案 ・ワークライフバランス推進	B	408人	398人	392
	他会計繰入金対医業収益比率(資本的収入分含む)	7.9	%	一般会計において負担すべき経費について繰入比率のアップを図る。	7.9	6.9	・一般会計として負担すべき経費を整理し、繰出を要望	・前年度比3,226千円の繰入増	・今後も繰入基準に基づいた繰入額の要望	B	11.6%	11.1%	8.5%
	他会計繰入金の繰入額		他会計負担金		他会計出資金		繰入金合計						
平成30年度		623,000千円		30,000千円		653,000千円							
令和元年度		643,273千円		30,000千円		673,273千円							
令和2年度		646,499千円		30,000千円		676,499千円							
現金保有残高	1,800	百万円	増改築事業等で借り入れた企業債の償還が徐々に始まり将来的に資金の減少が見込まれるが、キャッシュフロー残高は改革プラン期間中増加を図る。	1,800	2,979	・予算の策定や執行において経費の削減や収益増が見込まれる事業に対する投資を推進	・入院・外来収益の減 ・新型コロナウイルス感染症関連補助金による医業外収益の増	・企業債償還への対応と保有資金の確保	A				

自己評価 : 達成状況評価 A→目標以上、B→一定の実績、C→実績不足

4. 病院事業運営協議会委員からのご意見

- ・補助金等、国が実施している政策の情報収集に努めてもらいたい。
- ・最大の課題は新型コロナウイルス感染症を乗り越えること。今後インフルエンザやその他の感染症など予測不能の中、病院経営について中長期的に見通しを立てて乗り越えてほしい。